

【概要版】新木更津市立図書館整備計画（素案）

1. 整備計画の目的

本計画は現在の図書館の課題を踏まえながら、新たな図書館の整備を目指して教育委員会としてそのあり方・方向性を示すため、策定するものです。

2. 公共図書館の役割と基本的機能（本編 P.4）

公共図書館は、市民の知る自由を保障する機関として、すべての市民に等しく、いつでも必要とする図書館サービスを提供すると同時に、時代に合わせて変化・発展する必要があります。基本的な機能として①資料・情報提供機能 ②全ての市民への均等なサービスの提供 ③質の高いサービスの提供が必要です。

3. 木更津市立図書館の現状と課題（本編 P.5-20）

（1）木更津市の現況及び現図書館のサービス状況及び周辺地域の現状把握

- ①木更津市の現況：歴史・自然・近年の発展という観点から木更津市の特徴をまとめています。
- ②現図書館の状況：現図書館の建物状況、蔵書数、貸出冊数、年齢別貸出人数の分析、障がい者サービス、レファレンス件数、イベント実施状況の実績数をまとめています。
- ③関連公共施設等の現状把握：図書館サービスは、図書館を中心に各公民館図書館室をサービスポイントとしており、また各小中学校にも団体貸出を行うなど、市内全域の読書活動をサポートしています。
- ④関連計画：整備計画策定にあたり、前提或いは参照・連携すべき市の関連計画を挙げています。

（2）市民アンケートの分析

市民の図書館に対する考え方やニーズを把握するため、アンケート調査を実施しました。「本の充実」とともに、「広くて十分な駐車場」「座席が多くゆったり過ごせる」など、快適な利用環境を期待していることがわかりました。

（3）図書館等における事例の調査

- 近年注目されている図書館整備事例を紹介します。
- ①デジタル技術の活用事例：荒尾市立図書館(熊本県荒尾市)
 - ②市内全域に対する図書館サービス網の構築事例：
浦安市立図書館(千葉県浦安市)・足立区立図書館(東京都足立区)
 - ③官民を巻き込んだ郷土情報のアーカイブ化事例：千葉市図書館(千葉県千葉市)
 - ④学校との先進的な連携事例：厚木市立中央図書館(神奈川県厚木市)
 - ⑤複合施設事例：
大和市文化創造拠点シリウス（神奈川県大和市）・都城市中心市街地中核施設 MallMall(宮崎県都城市)

（4）課題の抽出

- ①施設・設備
現在図書館を利用している利用者が満足し安心して利用できる図書館を整備することが第一の課題です。また、図書館サービスを、特に高校生から20歳代までの若年層や子育て世代へ積極的に届けること、施設・設備面での障がい者サービスの充実も大きな課題です。
- ②利用者層の拡大
図書館を利用していない市民が年代を問わずまだまだ多い現状です。積極的な情報開示とアウトリーチ活動を展開して多様なニーズをしっかりと引き出し続けることが、新図書館の新たな価値の創出につながります。
- ③居場所・交流の拠点
あらゆる世代・立場・職業の利用者が多様な目的で快適な時間を過ごせる「居場所としての図書館」が期待されています。木更津の歴史と自然を踏まえた「木更津らしさ」を備えたかたちで整備し、市民の郷土愛や創造性を育む交流拠点となります。
- ④他機関との連携及び図書館サービス網の拡充
図書館サービス網を全域に拡充するため、博物館や学校、特徴ある企業等各分野に秀でた多様な組織・団体との連携を推進し、市内全域でネットワークとして実現を目指していきます。

4. コンセプト、規模目標及びサービス内容の検討（本編 P.21-25）

（1）コンセプト及び機能とサービス内容の検討

- ①資料・情報提供機能：幅広い資料や情報を豊富に収集し、市民がさまざまな方法で効果的にそれらに触れることができる機会を積極的に提供します。
- ②児童サービス：質の高い資料を揃え、読書の楽しさを実感してもらうため、子どもの読書環境の向上に努めます。
- ③郷土資料の提供・情報発信機能：文化や歴史などの地域情報を伝える機能を拡充し木更津市の魅力を発信します。
- ④主催事業、ボランティア活動の充実：各種講演会や学習会などを積極的に開催し、ボランティア団体との連携を積極的に推進します。
- ⑤デジタルライブラリー：社会的なデジタル化の大きな流れに合わせて、知識と情報の発信環境を整えます。
- ⑥バックヤード：利用者へ迅速に資料提供を行うため、作業スペースをはじめとするバックヤードを充実させます。

（2）蔵書目標の検討

図書館が所蔵する30数万冊に加えて、他施設等で保管されている資料や、毎年1万冊程度の書籍を新たに購入していることを考えあわせ、オープン時の蔵書冊数は40万冊程度とします。

（3）施設整備の目標面積構成の検討

一般開架エリア800㎡、児童エリア190㎡、郷土資料室320㎡、バックヤード710㎡など合計2,400㎡とします。

（4）想定される施設整備の概要

施設整備の目標面積構成の検討にあげた整備規模を基準に、類似規模の公共図書館整備費用を参考として、単独で整備（ロビー・トイレ・機械室等含んだ約3,000㎡の施設）する場合の概算整備費用を算出したところ、合計3,327,300【単位：千円】となっています。財源の確保を最優先にしつつ、市民ニーズを反映するなど、財政状況とのバランスに配慮した整備内容を検討する必要があります。

5. これからの図書館に求められるもの（本編 P.26-28）

（1）図書館機能のイメージゾーニング

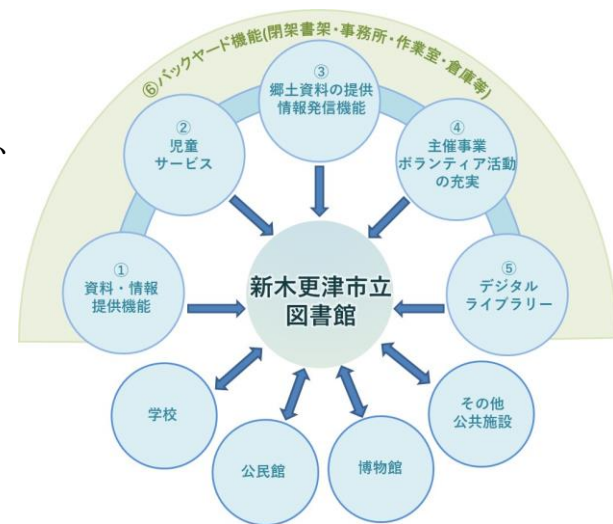
①資料・情報提供機能、②児童サービス機能、③郷土資料の提供・情報発信機能、④主催事業・ボランティア活動の充実、⑤デジタルライブラリーが調和しながら発展し、それらを継続的に発展させていくための⑥バックヤード機能が備わっており、公民館や学校等他施設とネットワークを築いて、市内全域に質の高い図書館サービスを行き渡らせる姿をイメージすることができます。

（2）複合化の検討

近年、図書館を核とした複合施設で「賑わいづくり」を目指す自治体が増えており、木更津市公共施設再配置計画においても、公共建築物の建替えの際は、統合及び複合化を基本方針としているため、今後建設される図書館は複合化が前提になることが考えられます。

（3）運営体制の検討

- ①直営：関係各課や他公共施設との連携がしやすいことがメリットですが、専門性の確保については職員の採用や異動との関係で難しい面が出てくる可能性があります。
- ②指定管理：直営に比べて運営コストを低く抑えることができる、各地の優れた取組を導入しやすい、デジタル化等の最新の動向を把握しやすいという点にメリットがありますが、中長期でのサービスの維持向上や継続性の点で不安が残ります。
- ③直営と指定管理や外部委託のハイブリット：多岐にわたる図書館業務の一部を切り分け、企業等に委託する体制や、運営にまつわる高度な意思決定や渉外業務だけを直営とし運営実務の大部分を指定管理や委託にする、という自治体もあります。単純作業のみを委託する場合、企業側にモチベーションが育たず業務の改善が見られなくなる弊害が発生することが予想されます。



↑ 図書館機能のイメージゾーニング